

蠶
養
と
艸



蠶養の轉

世の開くるに従ひ顯微の鏡あり分拆の藥ありて蠶病の多少を
知ると雖も其病根を未發に防ぎ氣候の變に應し家屋の構造に
従ひ臨機の養方に矇ければ有用の學理器械も老練の經驗に如
かず此卷一の理論なく里俗平易の語を歌につゝり世人の記憶
に便ならしむ此れ吾老兄一片の婆心にして多年經驗の餘に出
つ而て老父八十歳の餘澤なり今後少壯熱心の人有り若之に因
て益其理を明にし其養を精するに至れば我郷里の富榮期して
待つへし今年適と東京より歸省し喜て一言を卷端に書す

明治二十年四月

石幡貞謹誌

か研究死火たの産火たゝりせ思み嫌へ手を尽さぬは違ひ蠶の本六つかしと思へは苦にもなる蠶養ひの道知れば苦もなし稲麥は年の氣候に任すれど蠶は是を玄れを術あり足る事を知らて蠶を過しなほ照り降り毎にむだの氣配り掃ふるは時は種より出揃へし蠶見て掃出そは延せよ掃時は午前十一十二時の頃より午後の二時を限りに蠶には適度の氣候寒暖は七十五六迄せこそすれ切り桑は蠶の姿より少し大ひに刻め三つ休まで掃立に桑十四五匁掛てよし四五日目より二匁をませ掃立れ蠶に桑を過すなよ過せは細蠶休ますも出る莖ともに切りて養ふ桑目方葉計ならば三分扣よ糠の上に掃をろしては桑目方二匁ませよ二度三度まで掃蠶よりわらた一面叮嚀に散らし廣げよ紙に掃ても三日目は一ツのわらだ倍にして五日目を又倍となすべし桑掛る度數は定めかたけれど多くも凡六七度まで休み前桑盛りには四眠とも目方を増て掛よたびよ休み分け種一枚

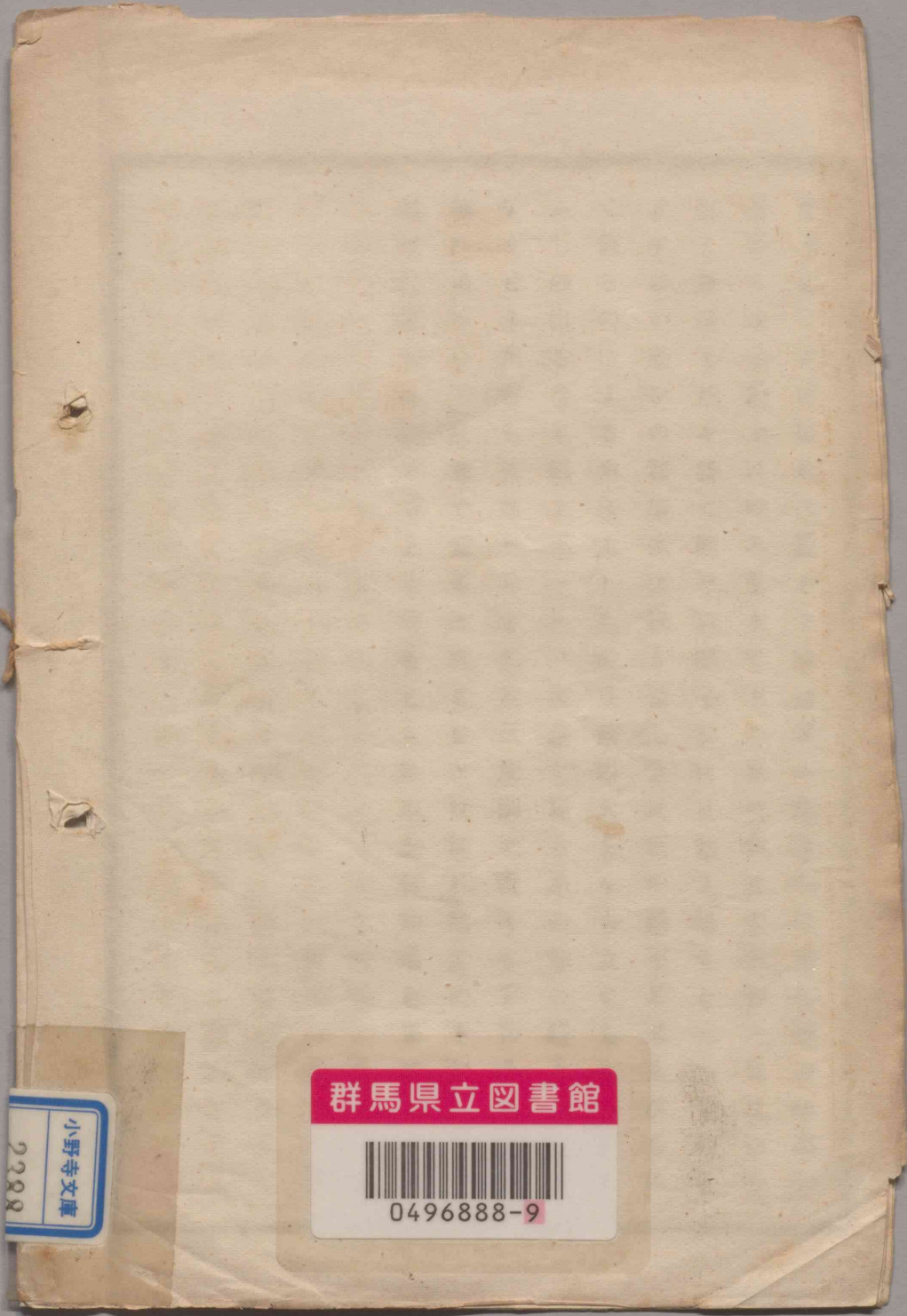
のわらた數八ツ九ツか十枚にせよ休蠶の四五歩出なほ桑目方扣て手入油斷なくせよ起蠶ちと見得なほ桑を休にして起揃ふては桑を掛べし桑付は十四五匁掛はしめ進々増して掛けよ二十目桑付て三四度目まで掛し桑の能く喰きりを見ては掛べし起蠶下桑を三四度掛し後に糠をふり掛け桑掛てとれ一休み休ます見ぬ蠶ても桑を過くせは休ますとなる籠る氣のある蠶室は戸を開て見るまに桑の匂へするなりめばりして暖氣飼ひする蠶室は蠶に毒の氣を籠るなり蠶には濕氣と乾く氣を量り桑の掛引するか專一冷氣なる家は蠶下たを乾かせよ桑を過すな氣を籠らすな寒さには桑次扣へよ暖氣には戸障子開け桑を掛けべし養ひて育つ蠶と知りてなを善し悪し毎に我か手入見よ後れ蠶と細蠶となるを能く知りて養ふ時は違ふ事なし火を用ひ内の暖氣を保つとも外の氣候の變りよく見よ用ひ方知れば蠶に藥なる火も時として毒となるあり降り續く雨には蠶下

○五
濕るなり火を焚もよし桑扣るもよし桑を掛過せは蠶下溜る故
蒸氣に逢ふて透蠶斃れ蠶桑不足にては細蠶と縮蠶よ過しては
又節蠶休まず氣の籠る家には數の窓を付け屋根にも煙り出し
を付べし朝日より夕日十分受る家は夜の午十二時迄は氣次籠
らすな朝日より夕日も更に受ぬ家は能く桑の喰切るがよし
四十日前後に蠶揚る家は桑の喰きり見ては掛へし蠶下溜蒸氣
に蠶飼ふ時は頭透わり縮み蠶も出る蠶には病の數も有るなれ
と十か九ツ養ひにあり蠶には風毒なりと思ふなよ風なき年の
繭不足見よ他家の眞似なすも蠶の寒暖は其家により國々によ
る二休み初眠わらたの倍に分け十六枚か二十枚まで桑付は十
七八匁掛にして追々増よ二十四匁まで三ツ休み二ツ休みの
倍にして三十枚か四十枚なり桑附は二十一二の目方より追々
増して四十二匁種よりの病は細蚕只一ツ外の病は養ひにあり
違ひたる時の廉々能く知りて手當を尽せ當る基々日を定め桑

を定めて飼ふとても氣候の變を知るが肝要寒暖を晝夜同くす
る時は桑の掛數定めるもよし寒暖は七十八九の度數にて養ふ
とても氣を籠らすな四眠には六十枚か七十のわらたの數に分
け直すべし四ツ休み三十四五の目方より百三四十目掛よ飼ふ
人船蠶より庭蠶に暖氣過る日は桑怠らす掛よ夜る迄休む時節
蠶となるは桑附て四五度までの桑過しなり起てのち節蠶とな
るは桑盛り頃より冷氣なるに桑過き節となり狂ひて早く斃る
は都て蒸氣の籠る故なり桑過の濕氣に節となるものは体大
井に早斃れせず引揚てまぶしに節となるものは庭蠶の冷氣桑
過きに出る桑不足にての縮み蠶尻からは青水を出す蒸れは水
出す船蠶より庭蠶に暖氣過る日は水をそきて桑を日一度を
しやり蠶は船蠶庭蠶の休みにて蠶下の蒸れと氣の蒸れに出る
休み中夜にむれわれはをしやり出る桑附の後は直にふるひ蠶
まぶしをは細かに立て蠶を薄く揚げ場もふるを氣も籠らそな

まぶしにて腐蠶死に蠶ある家は氣の籠るのに蒸し勝の年蒸し
 暑き日は其蠶上にのみせりて下の桑は食せず蒸勝の日は油斷
 なく桑薄く度々掛て開け戸障子蠶には陰と陽とを弁へて和合
 さすのか養ひの秘事糸に繰り悪しきは庭の桑不足又るびらに
 て籠るのによる糸にふし有のは繭の大ちゝら立てちゝらにも
 ふしの出るなり四ツ五ツ六ツ迄繭を繰る糸の始め終りの變り
 なくせよ糸とらは繭一升を二度三度別て煮るこそ善きものと
 知れ揚げわくは兼て定め有るなれば切れ結ふのと節に氣を
 付け打返し糸にすると捻るとも綾取を付始尾を正せよ





小野寺文庫
2288

群馬県立図書館



0496888-9